

H28 年度 地域ケア会議実施内容（報告）

○出席者

定例の出席者：中郡医師会医師 ケアマネジャー 社会福祉協議会
平塚保健福祉事務所 二宮町

随時の出席者：薬剤師 理学療法士 民生児童委員 警察署員

- 4月21日 研修 「地域ケア会議とは」
講師：国立市高齢者支援課地域包括支援センター 小山 重孝 氏
講演会后 グループワーク 「研修を受けてどう感じたか」
「どんな二宮町にしたいか」
- 5月19日 事例検討
「高齢で一人暮らし。病気を抱え一人で最期を迎えたいと望むケース」
- 6月16日 グループワーク
- 7月21日 事例検討
「認知症の周辺症状が強い方の安全確保と在宅支援の方向性について」
- 8月18日 グループワーク
- 9月15日 事例検討
「外部との接点の少ない本人と息子との2人世帯のケース」
- 10月20日 グループワーク
- 11月17日 事例検討
「独居高齢者が生活していくために」
- 12月15日 グループワーク
- 1月19日 事例検討
「徘徊を繰り返す本人。辛く当たらずを得ない妻に対する支援について」
- 2月16日 グループワーク
- 3月16日 年間まとめ 今年度の振り返り、次年度の方向性を検討。
町の方針・基本理念・目標・理想像、ケア会議の機能を出席者で再確認。

(年間振り返りの参加ケアマネジャー意見)

・事例検討（処遇検討）について：

個別事例は居宅介護支援事業所のケアマネジャーと包括支援センターが担当する事例を取り扱い、ケアマネジャーからは「多職種が参加する事例検討で気づきを得られ良かった」といった意見が聞かれた一方で「そもそも事例検討する必要性を感じない、包括だけが事例を出せばよい」という意見もあった。

・グループワークについて：

地域課題は抽象的ではなくもっと「明確な課題を抽出すべき」といった意見や、「より小地域に絞った課題抽出をしてはどうか」といった意見が出された。

(包括支援センター所感)

・ケアマネジャーを中心とした出席者に、より良いまちづくりに主体的に取り組んでいただくために、具体的な意見を求めたが、ケアマネジャーの多くが「地域包括ケアシステムの構築は包括支援センターと行政が行うこと」という他人事な姿勢の方が多かった。

住民だけでなく、サービス提供事業者も「地域づくり」を我が事として捉え、自分たちに何ができるのか考える場としても地域ケア会議に参加いただきたいこと、そもそもの基本理念すら伝わっていないことが改めてわかった。

そのため今後どのように伝えるか課題と感じている。